

トマトパークだより
第 27 便
2018 年 10 月



『トマトパーク 3 作目の各栽培室テーマ』

トマトパークの 5 つの栽培室で今作取組むテーマについてご紹介いたします。

【栽培室①—大玉トマトスタンダード栽培】

品種: りんか 409(サカタのタネ) 収量目標: 55t/10a

日本品種大玉トマトの高収量栽培を継続します。一昨年の初年度に目標の 50t/10a を達成できましたが、前作の目標 55t/10a が未達でしたので、今作も再度同じ目標を掲げて達成を目指します。従来均等だった誘引幅を調整して通路を広くとることで、作業性の向上を図ります。又、誘引クリップ導入で更なるストレス軽減を狙い、収量増に繋がります。



写真 1 ひっそり入っている栽培室①の
欧州系品種(カナバロ)



写真 2 りんか 409 とカナバロの背比べ

【栽培室②—高糖度栽培】

品種: CF 桃太郎ファイト、フルティカ(タキイ種苗) 収量目標: 糖度 8 以上で 16t/10a

品種を CF 桃太郎ファイトに一本化して臨んだ前作の高糖度トマト栽培では、糖度の安定と高収量を両立させることができました。今作は CF 桃太郎ファイトの高糖度栽培技術の安定化を目指すと共に、初めて中玉品種フルティカの高糖度栽培にトライします。フルティカの特性を活かした高糖度栽培を実現します。

【栽培室③—トマトパークアカデミー研修 2 年生責任管理】

ミニトマト品種:TY 千果(タキイ種苗)、花鳥風月(ナント種苗) 収量目標:32t/10a

研修 2 年生が環境及び給液設定、作業方針策定の責任者となります。栽培品種は TY 千果の他に研修生の希望である花鳥風月を導入、国内最高収量となる 32t/10a を達成させます。

【栽培室④—大玉トマト減農薬栽培】

品種:有彩 014(朝日工業) 収量目標:55t/10a

天敵利用による減農薬栽培(トマトパーク慣行比 50%減目標)を掲げた前作で、コナジラミ類及びアザミウマ類の捕食性天敵「タバコカスミカメ」の効果は実証できました。今作では継続試験とし、タバコカスミカメの適正な頭数管理等、より良い使用方法を探索します。品種は昨年導入の有彩 014 をメインに、食味の良い欧州系品種もこっそり試します。

【栽培室⑤—次世代型栽培】

品種:りんか 409(サカタのタネ) 収量目標:60t/10a

この次世代型栽培室では最新技術の積極導入により 70t/10a の早期達成を目指します。前作の途中に導入した LED 樹間補光については、効果を最大化するべく増枝及び LAI 管理を徹底し、20%増収を実現します。

写真 3 栽培室⑤LED 補光の様子

トマトパーク 3 作目の栽培は順調に進んでいます。ぜひ見学にお越しください。

『トマトパーク栽培状況 10月』

大玉トマト ー栽培室①ー

【栽培ノート：2018年9月16日～10月15日】

定植：8月17日	
品種 穂木：りんか409（株式会社 サカタのタネ）、台木：フレンドシップ（株式会社 サカタのタネ）	
栽植密度：3.12本/m ²	
生育状況（10月15日現在）	総草丈：155.4cm、葉数：12.3枚、開花段数：5段、 収穫段数：1段目
栽培作業（9月16日～10月15日）	誘引（巻きつけ）、わき芽取り、摘花、 直上葉・下葉の摘葉、収穫
病虫害防除（9月16日～10月15日）	サビダニ防除、コナジラミ防除

ミニトマト ー栽培室③ー

【栽培ノート：2018年9月16日～10月15日】

定植：8月17日	
品種 穂木：TY千果（タキイ種苗 株式会社）、台木：グリーンフォース（タキイ種苗 株式会社）	
栽植密度：3.12本/m ²	
生育状況（10月15日現在）	総草丈：265.8cm、葉数：17.3枚、開花花房：7.3段、 収穫段数：2段目
栽培作業（9月16日～10月15日）	誘引（巻きつけ）、わき芽取り、摘花、 直上葉・下葉の摘葉、収穫
病虫害防除（9月16日～10月15日）	サビダニ防除、コナジラミ防除



写真4 大玉トマト果房の様子



写真5 ミニトマト果房の様子